

## 『フューチャー・デザイン』

～持続可能な自然としあわせな社会を将来世代に残すために～

私たちの社会の二つの大きな柱は「市場」と「民主制」です。ただ、これから先に生まれてくる将来世代は、今の市場で意見を表明することはできません。つまり、今、彼らはお金を使えないのです。一方、あなたが次期市長選に立候補し、「将来世代のため、化石燃料を用いる乗り物は禁止」という政策を掲げるなら、きっと当選はしないでしょう。つまり、「市場」も「民主制」も将来を見る目を持ってはいないのです。このまま放置するとしたなら、人類そのものの存続すら怪しくなるのではないのでしょうか。

そのため、持続可能な自然と社会のために、将来を見る目をもつ社会の仕組みのデザインを目指して日本で誕生したのが『フューチャー・デザイン』です。持続可能な自然としあわせな高知を将来世代に残していくために、一般社団法人しあわせ推進会議の 83 団体の皆さまがひとつになって将来の視点から現代の高知を、今、デザインしようではありませんか。ひとつの県という単位で、しかも 83 個人・団体の皆さまが力を合わせて 1 つの連携を取って『フューチャー・デザイン』に取り組むということは、世界初の試みであり、高知県が世界で初めて実践する「場」となります。

私たちの住む高知県の将来がこれからどうなっていくのかということを考えてみましょう。東南海トラフ地震はいつ起こるのでしょうか。気候変動により高知市の真夏日は 2100 年には一年の 1/3 に及ぶといわれています。気候変動による海面上昇や東南海トラフ地震でも高知県の沿岸は沈下するそうです。県の人口は 2050 年には 50 万人を割っていると発表されているので、もしかしたら 45 万人くらいに減っているかもしれません。地震で多くの人々が県から離れるのでしたら、人口減はもっと加速するのではないのでしょうか。このような未来を、私たちはただ受け入れることしかできないのでしょうか。そうではなく、私たちの手で、持続可能で“しあわせ”な高知を作っていくことはできないのでしょうか。

このような課題に、今から将来を考えるのみならず、将来から今をデザインすることが『フューチャー・デザイン』です。個人・地域・企業・自治体が抱える様々な難題を将来世代に負わせるのではなく、そうならないように、将来の視点から今を考え、今やるべきことをデザインするのです。2 月 20 日から全 6 回で開催する『高知県フューチャー・デザイン 2050』に是非参画をして、皆さまとともに高知県の将来ビジョンをデザインし、個人・企業・行政機関の未来戦略に『フューチャー・デザイン』という手法を取り入れながら、活かしてください。